

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第3区分
 【発行日】平成21年1月22日(2009.1.22)

【公開番号】特開2007-158894(P2007-158894A)
 【公開日】平成19年6月21日(2007.6.21)
 【年通号数】公開・登録公報2007-023
 【出願番号】特願2005-353115(P2005-353115)
 【国際特許分類】

H 0 4 N 5/64 (2006.01)

G 0 2 B 27/02 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 5/64 5 1 1 A

G 0 2 B 27/02 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成20年12月2日(2008.12.2)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項1】

頭部搭載型装置を使用者の頭部に装着するための懸架式装着装置であって、頭部に頭部搭載型装置を固定する固定手段と、頭部搭載型装置を空間中において任意の方向に傾ける3自由度を得るための3つの独立な回転軸を頭部搭載型装置の重心を通して構成する第1の手段と、前記回転軸の1つを常に鉛直方向に一致させるための第2の手段と、頭部搭載型装置の重力による荷重を、釣り合いを保ってキャンセルするために前記第1の手段を上下方向に移動可能に懸架するための第3の手段を有することを特徴とする懸架式装着装置。

【請求項2】

前記第1の手段は、頭部搭載型装置の重心を通る水平の方向の回転軸の回りに頭部搭載型装置を回転自在にするために頭部搭載型装置を挟んで離間して設けられた2つの回転支持軸と、当該水平の方向の回転軸と直角の方向の回転軸の回りに頭部搭載型装置を回転自在にするために前記2つの回転支持軸の間を結ぶとともにその間で回転自在なブーリに懸架されて三角形に伸びた紐状体と、頭部搭載型装置の重心を通る鉛直方向の回転軸の回りに頭部搭載型装置を回転自在にするために鉛直の方向に懸架されて該ブーリを支持する懸架手段を含むことを特徴とする請求項1記載の懸架式装着装置。

【請求項3】

前記離間して設けられた2つの回転支持軸の間を結ぶ紐状体は、前記ブーリに対し少なくとも1重に巻かれて取り付けられていることを特徴とする請求項2記載の懸架式装着装置。

【請求項4】

前記第2の手段は、第1の手段を介して頭部搭載型装置を懸架して空間中の任意の位置に移動可能とする移動手段を含むことを特徴とする請求項1乃至3のいずれかに記載の懸架式装着装置。

【請求項5】

前記懸架手段は紐状体であり、前記第2の手段は、該紐状体の傾きを検知する検知手段と、該検知手段の検出結果に基づいて、該紐状体が常に鉛直になる様に、紐状体を鉛直方向に垂直な水平面内において移動を制御する移動手段を含むことを特徴とする請求項2乃至4のいずれかに記載の懸架式装着装置。

【請求項 6】

頭部搭載型装置の重心を、頭部搭載型装置を頭部に固定した使用者の首の回転中心に一致させるための第4の手段を更に有することを特徴とする請求項1乃至5のいずれかに記載の懸架式装着装置。

【請求項 7】

前記頭部搭載型装置は、頭部搭載型の映像表示装置であることを特徴とする請求項1乃至6のいずれかに記載の懸架式装着装置。

【請求項 8】

使用者の眼前から映像を表示する頭部搭載型の映像表示装置の本体と、請求項7記載の懸架式装着装置を有することを特徴とする懸架式頭部搭載型映像表示装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

また、上記課題に鑑み、本発明の懸架式頭部搭載型映像表示装置は、使用者の眼前から映像を表示する頭部搭載型の映像表示装置の本体と、上記の懸架式装着装置を有することを特徴とする。